

駅近スペースにカフェ風サテライトブースを開設 初日から中高生が来場

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久一等陸佐）は7月1日（火）、ペガサート1階（静岡市）に静岡募集案内所のサテライトブースを開設した。

これは「陸海空自衛隊サマー・フレンドシップキャンペーン」の一環として行ったもの。近くに複数の学校があり、駅や商業施設に隣接している立地を生かして、若者や保護者が入りやすいカフェテラス風を目指した。開設は7月31日（木）まで。ブースには、偵察用オートバイ、試着用制服や迷彩服、自衛隊紹介動画、触れる南極の氷、自衛隊の職種や働く自衛官の声を紹介するパネルなどを展示。明るい雰囲気のカフェテーブルや観葉植物を設置したほか、城南静岡高校地域貢献部と協力してフォトスポットの作製や室内の装飾を行った。

「ゆっくりくつろぎながら自衛隊を知ってほしい」との思いから、フリーワイファイや無料の飲み物、アイスも用意。初日は近隣の学校に通う中高生や親子連れなどが訪れた。

静岡所の自衛官や自衛官募集相談員等の協力が来場者を出迎え、展示品の説明や案内などを行った。来場者の中には「学校で防災講話をしてくれた人だ」と自衛官の顔を覚えていた生徒もおり、南極の氷に触れたり迷彩服を試着したりして、友達と楽しみながら自衛隊への理解を深めていた。

静岡地本は、今後も地域との繋がりを深め、自衛隊の活動を知ってもらえるよう広報活動を行っていく。



サテライトブース



説明を聞く中高生



迷彩服試着

掛川東高校で防衛大教授が模擬講義

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也一等空尉）は7月17日（木）、静岡県立掛川東高校（掛川市）で開催された大学進学講座に協力した。これは、進学を考えている1、2年生が、大学等から招いた教授の講義を体験して今後の進路決定の参考とするために行われているもの。

今回は、防衛大学の加藤直樹教授が「日本を取り巻く安全保障環境、君に考えてほしい君自身の明日」というテーマで講義を行い、国防に興味のある生徒約40人が聴講した。

加藤教授は、日々ニュースで取り上げられている国際情勢や日本の安全保障、防衛政策について、それぞれが密接に関わり合っていることをわかりやすく説明し、「今日講義で話したことは、みんなが考えていかなければいけないこと」と伝えた。

生徒たちは、普段触れることのない話題に興味深く聞き入り、講義終了後には「面白かった」「自分の中の世界情勢がアップデートされた」「世界情勢や防衛は、自分たち自身が考える問題なんだと認識した」と感想を話していた。

また、加藤教授も「普段と違い、防衛について初めて講義を受けて高校生にどうすれば伝わるか考え、新鮮な気持ちで臨むことができて、勉強になった。また機会があればぜひ協力したい」と継続的な活動への意欲を見せた。

袋井所は、今後も防衛大学校等と緊密に連携して、学校での講義や講座を実施し、自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くしていく。



掛川東高校で防衛大教授が模擬講義

